

平成 30 年度 「書の表現(基礎)」シラバス	単位数	2 単位	担当者	東徳嶺 輔
	対象学年	2・3 年次	使用教科書	学校作成教材による

1 学習の到達目標及び評価方法等

学習到達目標	<p>1 書道における幅広い創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情広い視野から書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。</p> <p>2 書を理解しこれを楽しむ態度を通して感性を磨き、日常生活に役立つ実的な書の表現能力をより一層高める。</p> <p>3 書道検定などに積極的に挑戦し、その取得を目指す。</p>
課題・提出物等	<p>1 毎時提示された課題(作品等)を提出する。</p> <p>2 授業中に書いたものは、基本的に試書、添削を受けたもの、清書を問わずすべて提出する。</p>
評価方法	<p>1 提出作品等。その枚数や内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。</p> <p>2 発言、本読み、板書など積極的な態度には、加点もある。</p>
評価の観点	「関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価する。

2 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ね ら い	備考
前期	4	毛筆検定4級の実技領域の基礎 ①漢字と仮名 ア 漢字(楷書) イ 平仮名・片仮名	6	<ul style="list-style-type: none"> 多く用いられる平易な漢字を点筆順・字形を整えて書く。 平仮名・片仮名を筆順・字形を整えて正しく書く。 	
	5	②文章 ア 漢字仮名交じり文 ③毛筆書写に関する知識	8	<ul style="list-style-type: none"> 平易な漢字仮名交じり文を正しく整えて書くことができる。 毛筆書写に関する用具・用材(筆・墨硯・紙)などの正しい使用法を知る。 	
	6	毛筆検定3級の実技領域とその内容 ①漢字と仮名 ア 楷書 イ 行書 ウ 平仮名 エ 片仮名	8	<ul style="list-style-type: none"> 楷書を正しく美しく書くことができる。 行書を正しく美しく書くことができる。 平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。 	第1回書写検定
	7	②文章 ア 漢字仮名交じり文 イ 掲示	6	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じり文を正しくかつ体裁良く書くことができる。 簡単な掲示を正しく効果的に書くことができる。 	
	9	毛筆検定3級の理論領域とその内容 ①国語の表記法 ア 常用漢字の字体・音訓筆順 イ 現代仮名遣い・送り仮名 ウ 符号の使い方	8	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の字体、音訓、筆順に関する知識、理解をもっている。 現代仮名遣い及び送り仮名の付け方に関する知識、理解をもっている。 区切り符号その他の符号に関する知識、理解をもっている。 	

後期	10	②その他 ア 草書を読む イ 毛筆書写に関する知識	8	・よく用いられる平易な草書を文の中で読むことができる。 ・毛筆書写に関する用具・用材（筆・墨 硯・紙）などについての一般的な知識、理解をもっている。	
	11	毛筆検定2級の実技領域とその内容 ①漢字と仮名 ア 楷書 イ 行書 ウ 平仮名 エ 片仮名	8	・楷書を正しく美しく書くことができる。 ・行書を正しく美しく書くことができる。 ・平仮名・片仮名を正しく美しく書くことができる。	第2回 書写検定
	12	②古典の臨書 ア 楷書 イ 行書 ウ 草書 エ 仮名	6	・楷書、行書及び草書を正しく美しく臨書することができる。 ・仮名を正しく美しく臨書することができる。	
	1	③文章及び文書 ア 漢字仮名交じり文 イ 掲示 ウ 自由作品（半紙、色紙、短冊、半切）	6	・漢字仮名交じり文を目的に適した書体で正しく美しくかつ全体を効果的に書くことができる。 ・掲示を体裁良く書くことができる。 ・半紙、色紙、短冊及び画仙紙の半切に体裁良く書くことができる。	第3回 書写検定
	2	毛筆検定2級の理論領域とその内容 ア 3級の領域 イ 常用漢字表に掲げられていない漢字の字体（旧字体・書写体）、音訓及び筆順指導の手引き」に示されている以外の筆順 ウ 現代仮名遣い、送り仮名 エ 符号の使い方	8	・3級に示されている領域の内容を更に正確に習得、理解している。 ・常用漢字表に掲げられていない漢字の字体（いわゆる旧字体・書写体）、音訓及び筆順に関する知識、理解をもっている。 ・現代仮名遣い及び送り仮名の付け方に関する知識、理解をもっている。 ・区切り符号その他の符号に関する知識、理解をもっている。	
	3	②その他 ア 草書を読む イ 文字の歴史 ウ 毛筆書写に関する知識	6	・よく用いられている草書を読むことができる。 ・文字の源流や変遷についての知識理解をもっている。 ・毛筆書写に関する用具・用材（筆・墨 硯・紙）などについて三級より更に高度の知識、理解をもっている。	

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。 ・鑑賞においては感じたことを的確に表現する自分自身の言葉を捜していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。